

2026 年 8 月 27 日

株式会社エコクリーン江別
代表取締役 楠 瀬 一 郎 殿

環境クリーンセンター等運営事業評価委員会
委 員 長 押 谷



第 19 回環境クリーンセンター等運営事業
評 価 報 告 書

日頃より江別市の廃棄物処理の一翼を担っておられる御社に対し市民に代わり感謝申し上げます。

世界各地では温暖化による深刻な影響が発生し、ウクライナに対するロシアの侵攻は今も続いています。さらに米国とイスラエルによるイランへの攻撃は、原油輸入の要衝であるホルムズ海峡の封鎖をはじめ中東諸国の不安定化を招き原油価格の高騰、ナフサなどの資材不足などによって日本をはじめ世界経済は混乱しています。

このような厳しい社会経済情勢の下で環境クリーンセンター等の施設・設備は、2002（平成 14）年 11 月の竣工以来、24 年目を迎えています。御社は 2007（平成 19）年 10 月に江別市より長期包括的運営管理の委託を受け、それ以降一貫して江別市の廃棄物処理の根幹に関わる業務を担ってこられました。

施設は運転開始から 20 年以上を経過し、老朽化、経年劣化が進むなか延命化工事を終え、御社は安全かつ適正に運転するための業務を担っています。

一企業として適正な利益を上げるだけでなく、社会的な責任と公益性をもつ事業であることを貴殿はじめ従業員ならびに関係会社全員が十分に認識し、安定した運転管理、環境対策に配慮し、安心・安全で健全な経営を行っていただく必要があります。

本年 7 月 29 日に御社における環境クリーンセンター等の運営状況を評価するため、別紙の 5 名の評価委員による第 19 回環境クリーンセンター等運営事業評価委員会を開催いたしました。

本評価委員会は、例年と同様に対面で実施し、2025（令和 7）年度の御社の環境クリーンセンター等運営事業に関連する各種データなどを踏まえた詳細な説明を受け、質疑にも真摯に応答いただきました。

事業内容に関する説明によれば、人材確保が難しく若干の欠員はあるものの安定した事業には影響がないこと、作業員の労働災害をはじめ重大な事故による長期に亘る運転停止に至るような不具合が発生することはなく、適正に操業してきたということを、貴殿はじめ関係社員から説明を受けました。

その後、貴殿ならびに関係者に委員会の席からご退席いただき、委員のみで評価について協議を行いました。その結果、下記の通り評価することとしましたので報告いたします。

記

評価結果：環境クリーンセンター等運営事業評価委員会では、2025（令和 7）年度の株式会社エコクリーン江別（ECE）の事業について、次の事項について楠瀬一郎代表取締役はじめ関係者から具体的なデータをもとに運転状況に関する説明を受けた。その後、委員による事業運営についての評価に関する協議を行った。その結果、下記のすべての事項について特段の問題はないと認め、事業を適正に運営されているものと評価する。

- 評価事項
1. 運転維持管理について
 2. 環境保全について
 3. 事業経営について
 4. 環境整備および地域貢献について

(別紙)

環境クリーンセンター等運営事業評価委員会

委 員 名 簿

(敬称略、順不同)

	氏 名	所 属 団 体
委 員 長	押 谷 一	酪農学園大学名誉教授
副 委 員 長	星 優 子	日本リサイクルネットワーク・えべつ
委 員	中 井 悦 子	江別消費者協会
委 員	宮 本 哲 明	八幡自治会
委 員	森 木 健 一	江別建設業協会

I. 評価事項に対する説明の概要

1. 運転維持管理について

江別市による要求水準書に定められた業務を適正に実施するための組織体制について 2025（令和 7）年 4 月 1 日現在の「江別市環境クリーンセンター運転維持管理に係る組織体制」の説明を受けた。

楠瀬一郎代表取締役以下、廃棄物処理施設の運転に関わる技術管理者、ボイラータービン主任技術者、防火管理者など法令で定められ運転維持管理のために必要とされる有資格者が適正に配置されていること、職制によって勤務時間帯等は異なるが、適正な運転管理を行うための運営体制となっていることなどを確認した。

（1）ごみ搬入量

2025 年度は、前年度に比べ、ごみ搬入量について可燃ごみが 3.6%減、不燃・粗大ごみが 11.4%減となり、直接埋め立てごみ量は、火災ごみ（災害ごみ）の搬入が多く 169.9%の大幅な増となっている。

（2）焼却施設の運転状況

① ピット受入量

前年比で可燃ごみは 3.6%減、排水処理に伴って発生する脱水ケーキは 4.6%の増、破碎施設からの選別可燃物が 12.1%減となり、ピット受入総量は 4.1%の減であるとの説明を受けた。

② 可燃ごみ処理量

可燃ごみの処理量については、前年比で 7.5%減、ピット受入量の減少とともに年々減少しているとの説明を受けた。

稼働日数については、前年に比べて減少している。定期整備、延命化工事並びにピットの残量に伴う計画停止により、1 系炉が 14.1%減、2 系炉が 1.5%増となっている。

③ 資源化物量

資源化物量については、熔融スラグが 14.8%減となり、ミックスメタル（金属類）が 8.4%減と総量としては、13.9%減となり年々減少している。

（3）破碎施設の運転状況

① 不燃・粗大ごみ処理量

処理量は、前年比で 11.3%の減となり、1 日当たりの処理量は昨年度に比べて 8.2%減のことであった。

② 資源化物量、焼却・埋立量

資源化物量は、前年比で 15.8%の減となっていること、昨年と同様に不燃・粗大ごみとして搬入された 2,403.78t のおよそ 72% (1,733.15t) が可燃ごみピットに送られ焼却処理されている。

（4）新最終処分場（現在、運用中の処分場）

① 埋立処分量

前年度に比べて容量ベースで破碎残渣が 10.9%の減となっている一方、直接一般ごみは前述のように火災による災害ごみの搬入が多く 124.6%増となり、全体的には 4.0%減となっている。

② 浸出水原水、放流水の水質

要求水準書にもとづいて水質測定を継続して実施しているとの説明があった。浸出水は処理施設で環境基準を達成するように処理された後、放流されている。汚染度を示す BOD（生物化

学的酸素要求量)、SS(浮遊物質)、Ca⁺⁺(カルシウム)などの、処理後の放流水の水質については、すべて基準値内であることの説明を受けた。

(5) 旧最終処分場(運用を完了)

浸出水は、適正に処理され、放流水の水質は、すべて基準値内であるとの説明を受けた。

以上の通り可燃ごみ及び不燃・粗大ごみの搬入状況、焼却処理、資源化物の回収状況、最終処分(埋立)ならびに浸出水の処理状況について、測定データなどをもとに説明を受け、特段の問題がなく処理されていることを確認した。

また、運転日報、データなどについては、原本を適宜、閲覧し、適正に記入されていること、整理保管されていることについても確認した。

(6) 重大事故、労働災害の発生の有無

2025年度においては、運転の全面停止に至るような重大な事故、不具合及び労働災害は発生していないとのことであった。

しかし、法定点検などによる運転停止以外に計画外停止が、2系炉で2回発生している。1回目は、ボイラの高圧蒸気復水器の配管が経年劣化で腐食したことによる水漏れで、配管の一部を塞ぐ措置をとり速やかに運転を再開したとのことであったが、他にも劣化が見られることから来年度は全ての配管を交換するとの説明を受けた。2回目はボイラの給水ポンプの吐出管溶接部からの水漏れによって運転が停止され修理を行ったとのことであった。

さらに運転停止には至っていないが不燃・粗大ごみ供給コンベアにおける発火が47回発生しているとのことであった。これは、本来「危険ごみ」として分別されなければならないリチウムイオン電池が粗破砕機によって破砕されて発火したことが原因となっている。出火した際には自動消火設備によって速やかに消火されるが、コンベア内の原因物を探し、異常がないことを確認するため処理作業が一時中断することになる。

なお、委員会としては、従来より人身事故をはじめ設備などの損壊によって系全体が運転停止につながっていない場合には「計画外停止」として報告されないと確認している。しかしながら、リチウムイオン電池が分別されず、このように頻繁に出火していることは、重大な事故につながり、計画外停止に至る恐れがある。特に東京や道南の廃棄物処理施設では、大規模な火災につながり、長期に亘る運転停止につながった事例があるところであり、重大な事故が発生するとごみ処理が甚大な影響を受けることから、江別市の関係部署に対して、危機感を持って分別方法の見直し、市民への分別徹底などの啓発を強めるようECEからも強く要請して頂くことを求めたい。

なお、いずれの事案についても作業員の怪我や機器の重大な損傷には至っていないことを確認した。

2. 環境保全について

環境保全業務については、測定、分析すべき項目、頻度などは要求水準書に記載されている事項について、定期分析計画、分析結果を示しながら説明を受け、すべて問題がないことを確認した。

本施設においては、国の環境基準を遵守することは当然であるが、それより厳しい基準値を定めた江別市が独自に環境基準値を設定し、すべての項目でそれをクリアーしているとの説明があった。

なお、昨年の委員会において、土壌中のダイオキシン濃度について、排出されるガスの濃度については基準値を下回っているが、土壌に蓄積する心配はないのかとの質問があったことを踏まえ、次のような説明を受けた。土壌中のダイオキシン濃度は、毎年測定し、若干の変化はあるがこれは誤差の範囲であり、

測定の数値は基準値を大幅に下回り、測定値については横ばいであることから、土壌中に蓄積しているとは考えられないとの説明があった。この説明を受けて委員会として了解することとした。

3. 事業経営について

収支決算状況などの改善など経営にかかわることについては、定期的に開催される取締役会、株主総会が責任をもつべきことであり、本委員会としては、決算書などから江別市との契約を交わすことのできる事業主体として適当であるかという視点から評価を行うこととした。

本年6月5日に定時株主総会が行われ、事業報告ならびに第19期決算を報告し、承認されている旨の説明を受け、経営上の問題点は無いことを確認した。

委員よりごみの搬入量が減少するとE C Eでは江別市からの委託費が減少し、経営面で問題はないのかとの質問があり楠瀬一郎代表取締役より、今後のごみ搬入量の推計について説明があった。それによれば、市の人口減少に伴ってごみ量が減少し、市からの委託費のごみ量に応じた変動費が減少するが、現時点で問題とは考えていないとの回答があった。

なお、計上された費用のうち工事請負費等を江別市内の業者に支払われた分（市内調達率）は、全体で13.8%となっている旨の説明があった。業務委託費の市内業者への発注・調達が低いのは、設備などの部材など市内での調達が難しいものによるものであるとの説明を受けた。

4. 環境整備および地域貢献について

地域との連携を強化するとともに、地域貢献のための事業についても積極的に取り組んでおり、江別市の子育て支援事業の一環として「こんにちは赤ちゃん事業」と「親と子の絵本事業」に協賛していることの説明があった。

また、周辺環境の整備のために、春と秋に周辺のごみ拾い「環境美化ウォーク」を関連企業、団体と協力して実施し、さらに八幡自治会主催の八幡8号道路周辺の清掃活動に積極的に社員が参加しているとの説明があった。

市内在住の親子を対象にした「環境フェア★イン八幡」を八幡自治会のご協力の下、2025年10月19日（日）に開催し、27組87名（うち小学生34名、小学生未満13名）の参加があった旨の報告があった。

なお2025年度の環境クリーンセンターの視察・見学は、市内の小学生、企業、団体など31団体、合計885名であった。

以上の担当者からの説明に加えて運転管理業務を委託しているJ F E環境テクノロジー株式会社・友山義文氏ならびにクボタ環境エンジニアリング株式会社・寺内辰雄氏にオブザーバーとして陪席いただいており、技術的な事項の質疑に応じていただいた。いずれも適宜、必要な補修などを実施しているが、施設・設備には問題なく、運転管理も順調であるとのコメントをいただいた。

II. 総括

環境クリーンセンター等運営事業評価委員会は、株式会社エコクリーン江別の2025（令和7）年度事業を評価するため、2026（令和8）年7月29日に評価委員会を開催した。

委員に対しては、事前に測定データなどを記した関係資料が送付され、委員会において、楠瀬一郎代表取締役ならびに担当社員より事業内容について詳細な説明があった。

評価委員会では、評価事項すべての説明および質疑応答を終えた後、委員以外の関係者の退席を求め、委員のみによる評価について協議を行った。その結果、委員全員一致により株式会社エコクリーン江別における環境クリーンセンター等の2025年度の事業の運営については特段の問題はなく、適正に

運営されていると評価する旨の結論に至ったのでここに報告する。

なお、委員からは、次のような付帯意見が示された。

- 1) 今回の資料はとても読みやすくなっている。
- 2) 社会全体として人員不足であり採用が難しくなっている状況を踏まえ、今後の課題として DX、ロボットなどの導入も将来的に検討して行く必要がある。
- 3) 八幡自治会などと共に道路などの清掃、ごみ拾いに協力いただき感謝している。
- 4) 前述のように火災発生によって重大事故につながる恐れのあるリチウムイオン電池の分別について市民に対する啓発を強めていくように江別市に強く申し入れしていただきたい。
- 5) ごみの減量に伴う市からの委託費のうち変動費の減少に対しては、経費の一層の見直しなど経営面での対応の強化を求める。
- 6) 施設見学に来訪した子どもたちの感想文を拝見した。社内にも掲出し、関係者にも読んでいただきたい。

なお、末筆とはなりますが、楠瀬一郎代表取締役はじめ従業員、関係企業の皆さまの益々のご安全とご活躍を祈念いたします。

以上